



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA
1-5-6 TOSABORI, NISHI-KU,
OSAKA, JAPAN

標語 YS SLOGANS (2001~2002)	
クラブ会長	『ひろがれワイズ ぬくもりのある共生社会をめざして』
国際会長	“Building new Y'sdom with the teachings of Jesus Christ”
	『イエスキリストの教えに基き 新しいワイズダムの建設を』
アジア会長	“Be a Grain into the Ground”
	『地中の種となれ』
西日本区理事	“No Dream No Future”
	『クラブビジョンを語ろう』
中西部長	『兄弟愛をつづけよう』

December 2001 No.6
Chartered July 20, 1982

クラブ役員 Officers	
会長	: 中村 茂高
副会長	: 畠中 彰
”	: 松浦 孝次
書記	: 山田 孝彦
”	: 畠中 彰
会計	: 三浦 直之
ネット会長	: 畠中ひろみ
Y連絡職員	: 浜野 昌保

月間強調テーマ：『EMC—M』

《《《《 12月の聖句 》》》》 【 Biblical Message of the Month 】

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕(しもべ)の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだつて、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

(フィリピの信徒への手紙 2章6~11節)

《《《《 Attention Please 》》》》

- YMCA合同クリスマス会では、礼拝の受付・清掃、祝会での飲み物の提供を担当、コーラスも歌います。
- 12月第2例会は、12月19日(水) ホテルサンガーデン堂島4Fにおいて、17:30からの役員会のあと、18:30から20:30まで全員が出席しての年納めの「納会」をもちます。
2001年を振り返り、新たな年への出発のバネとしたいものです。そして石津雅人、鎌田史郎両氏の入会式という、うれしいセレモニーがあります。

《《《《 12月例会 》》》》 【 December Regular Meeting 】

○12月 第1例会

- 日 時: 2001年12月1日(土) 17:00~17:30
場 所: 大阪YMCA土佐堀館5F 502号室
司会 谷川 俊一君
 1. 開会点鐘 中村 茂高 会長
 2. ワイズソング 一 同
 3. 聖句朗読 池永 栖子君
 4. お誕生日祝い 一 同
 5. ニコニコ献金 ドライバー
 6. その他連絡・報告 各 担当
 7. 閉会点鐘 中村 茂高 会長

○YMCA合同クリスマス会

日 時: 第1例会と同日 (12月1日)

プログラム:

- 18:00~18:45 大阪教会で「礼拝」(地の上に平和)
- 19:00~20:30 YMCA土佐堀館2F ホールで「祝会」(祈り・癒し・平和)

○12月 第2例会

日 時: 2001年12月19日(水)

場 所: ホテルサンガーデン堂島4F

役員会: 17:30~18:30

納会: 18:30~20:30 会費: 4,000円

*12月例会当番 第3班 (藤原、黒田、谷川寛、田中、池永栖、谷川俊)

*お誕生日 Happy Birthday! 黒田君2日、谷川俊君5日、中村隆君26日、浜野メネット17日

【クラブ統計 Statistics】 (注一部の数値が11月23日現在未確定です)

2001年11月	種別	第1例会	第2例会	BF ポイント	ニコニコ献金
在籍会員 26名	メンバ	16名	名	11月: 切手 gr	11月: 16,300 円
例会出席 名	ネット	6名	名	現金 円	
マークアップ 名	ビジター	1名	名	累計: 切手 4,245 gr	累計: 99,130 円
出席率 %	ゲスト	2名	名	現金 円	(除Xmas 献金、オーケション、記念献金)
(Attendance Ratio)	合計	25名	名		

《 今月の聖句に寄せて 》

この聖書の箇所は、使徒パウロがフィリピの教会の信徒に宛ててしたためた手紙です。パウロはここで神とイエス・キリストの関係を説明しようと努力している姿勢が読みとれます。

それはとりもなおさずクリスマスの意味を最も端的に表現している言葉です。

人は残念ながら、見えざる神の意志を直接感じたり、くみとったりすることはできません。しかし神の意志が、人間社会に生を享けた神の独り子とされるイエス・キリストの生き方の中に具体的に示されているとするならば、それによって私たちは神の意志を知ることができるわけです。

イエスの生涯は30数年の短いものでありましたが、徹底的に「愛」を実践し、貰いたものでした。十字架という刑をも忌避せずに人々に対する愛（それは神の愛にほかなりませんが）を示したものでした。今、私たちがもし十字架に象徴されたキリストの愛の生涯を心に享け入れることができるとならば、その人は最も意義あるクリスマスを迎えることになるでしょう。

（聖句選、コメント：黒田敬之）

《 Club Activities 》

With an emphasis of "Brotherhood Fund", a total of 16 members, 6 Y's menettes and 3 guests gathered for the November meeting.

We were pleased to see Y's man Osamu Ishikawa, District Service Director in charge of the BF, and two prospective candidates, Mr. Masato Ishizuka and Mr. Shiro Kamata were among our guests.

Y's man Keizo Kuriyama, responsible for the BF briefed the meaning and purpose of the BF programs while we were engaging in sorting out good quality used stamps among stamps collected.

Mr. Masayasu Hamano, our related Y staff reported us of the successful outcome of the Charity Run and the carnival event held recently at the Osaka YMCA.

President Shigetaka Nakamura and Y's man Sam Fujiwara briefed details of the club's new Community Service projects such as to sponsor the "Amerasian Children Summit" meeting to be launched in August, 2002. All members approved the programs and sharing each one's roles was discussed.

Y's man Takaaki Yuasa, former DG of the Biwako District, now our member spoke about useful experience he had while in the Biwako District.

《 11月第1例会 》

【 Report of the November Club Meeting】

（11月21日（木）18:30～20:45）

プリテン担当：松浦 孝次

11月はBFの月。栗山BF委員長から「BFとは、使用済み切手を換金して、公式行事に参加する旅費の資金源とすること」等々の説明があったあと、全員がハサミを持って、大量の切手をカッティングしました。中西部の石川修フンド事業主査がゲストとして来訪されました。

浜野 昌保メンからは、YMCA情報として、YMCA学院高等学校の開設、初めての土佐堀YMCAカーニバルと恒例のチャリティーランが盛況のうちに開催されたことが報告されました。

新しいCS活動目標がこのほど決定したので、藤原地域奉仕委員長と中村会長から、その趣旨・背景・内容について詳しい説明がありました（①神縄アメラジアンスクールへの支援 ②大阪YMCAミャンマー・チャイルドケアプロジェクトへの支援）。それについて、メンバー全員が夫々何らかの役割を担って参画すべきこと、プログラムをよく検討すること、YMCAとの連携を十分にする、など前向きの意見が多く出ました。

今月の「ちょっとスピーチ」は、湯浅 充章メンが担当。自らのワイスメン人生について披露がありました。1988年から5年間当クラブに在籍の後、滋賀・草津ワイスメンズクラブに転籍し、びわこ部部長にも就任。滋賀県のワイスは、地域問題を行政とタイアップして取り組む姿勢が特徴的だそうです。そうした幅広い活動を通じて、貴重な人的交流が得られ、大変勉強になったとのスピーチでした。

《 YMCAニュース 》

連絡職員・浜野 昌保

★大阪YMCA早天祈祷会

日 時：12月21日（金）7:30～8:30

場 所：大阪YMCA会館 10階チャペル

証 し：岡村 健氏（日本基督教団大阪教会牧師）

★北YMCAクリスマスチャリティーコンサート

～クリスマス聖歌とヴァイオリンの調べ～

日 時：12月14日（金）19:00～21:00

場 所：豊中市立アクリア文化ホール（阪急曾根駅下車）

問合せ：大阪北YMCA Tel.06(6867)4744

★大阪YMCA公開講座「福祉文化を築く」

～市民社会とボランティアについて考える

日 時：1月12日（土）13:30～16:30

場 所：大阪YMCA会館 2階ホール

講 師：阿部 志郎氏（横須賀基督教社会館 館長）

土肥 隆一氏（衆議院議員）

河 幹夫氏（厚生労働省参事官）

問合せ：大阪YMCA Tel.06(6441)0894

* 第1回土佐堀Yカーニバルは、11月3日（祝）に雨にもかかわらず520名を越える来館者でにぎわい、模擬店や献品販売などで18万円余りの収益を得ることができました。クリスマス献金として地域奉仕活動に有效地に使わせていただきます。皆さまのご奉仕に感謝いたします。

* 翌週に行なわれたチャリティーランは、快晴の絶好のコンディションで、44チーム出場、ランナー・ボランティア合わせて480名もの参加を得ました。収益金288万円余りは、心身に障害のある子どもたちへの支援プログラムのために使わせていただきます。重ねて皆さまのご奉仕に感謝いたします。

「関西いのちの電話バザー」に奉仕

山村 幸明

11月3日(土)、わがクラブが地域社会の奉仕の一端として支援する、「関西いのちの電話」創立27周年記念バザーが、大阪十三の博愛社内で開催されました。

常連のメンバーが売り子に変身。柿、みかん、りんご、西洋梨の販売は、例年どおりメン。柿は開店前に完売し、閉店までには全商品をどうにか完売でき、収益はそれなりの計上となりました。

衣料品の販売はメネットが担当。当日はあいにくの雨天で、売り場を屋外から屋内1階廊下に移ましたが、声高く売り上手なメネットの活躍で、予想以上の売上でした。

1年1度の行事で、参加された会員もそれぞれ購入され、売上に貢献されました。会員の皆様のご協力、ご苦労様でした。

文化の日 売り子楽しむ 奉仕かな
秋衣料 売り子のメネット 楽しきり
秋果実 売り子の姿 菩薩かな

当日の売り子さんは、メネット：福永、中村幸、隅田、畠中、山村。メン：畠中、福永、山田、谷川俊、栗山、山村のみなさんでした。

*なお、関西いのちの電話バザー実行委員会から、当クラブの奉仕に対して、「天候等条件の悪いなかで昨年なみの成果を出すことができほっとし、喜こんでいます。ご協力に大変感謝します」とのメッセージが寄せられています。

2001 土佐堀YMCAカーニバルが開催

11月3日(土)11時～16時、土佐堀YMCA会館で賑やかに開催されました。土佐堀YMCAとして初めての試みです。同YMCAに関わる10を超えるグループによって、バザー、オークション、模擬店、イベントコーナーなどが運営されました。520人を超える人達が参加し、売上純益約18万円はクリスマス献金に供されます。

わがクラブは、「関西いのちの電話バザー」への奉仕と重なったので、浜野・松浦メンと松浦メネットの3人が奉仕。他のワイズメンたちと共に、バザーの運営に従事しました。バザーは、献品と果物・ワイン・海産物の販売でしたが、あわせて9万円弱の売上を得ました。

献品していただいたメンバーの皆さんにお礼申しあげます。またわがクラブから運営費に1万円を拠出しました。

大阪YMCAチャリティランに参加

第7回大阪YMCAチャリティランが、11月11日(日)服部緑地で、抜けるような青空のもとで開催されました。

わがクラブからは3チーム——おぼろ月チーム、たそがれ星チーム、生野高等聾学校どんぐりチームが出場し、1人あたり1～2kmを頑張って走りぬきました。

おぼろ月、たそがれ星両チームは、わがクラブメンバ

ーのファミリーで構成し「宣言タイム制」に出場、宣言時間65分より7～10分早くゴールして、20位と27位。

他方、当クラブが支援したどんぐりチームは「順位制」に出場して、見事2位を獲得しました。

クラブから、18人(三浦・山田・藤原・新保メン、坂本メネット、畠中夫妻、隅田夫妻、山村ファミリー、松浦ファミリー)の人たちが参加し、奉仕しました。収益は、障害をもつ人たちを支援する大阪YMCAの事業に用いられます。

[以上の2項 文責 松浦孝次]



(チャリティランに参加したクラブメンバーたち)

◆◇◆◆ ◆◇◆◆ ◆◇◆◆ ◆◇◆◆ ◆◇◆◆ ◆◇◆◆

最近トイレ事情

谷川 寛

ワイズ国際本部の前国際書記 Ingvar Wallin 夫妻が、11月初め、日本のワイズ有志の招きで来日しました。東京、熱海、京都、神戸、広島、宮島などを訪問して、日本の秋を楽しんで帰国しました。私は広島、宮島への旅にお伴しました。いろんな話をする機会がありました。奥さんの Christiane が、日本の旅で一番感激していたもの一つに、"ウォシュレット"などの洋式洗浄トイレがありました。

最近は、日本各地のホテル、旅館、また個人宅でも、例の洗浄トイレが普及しています。彼女は、これに感心して、みやげとして、できればスイスに持ってかえりたい、と盛んに言っていました。

ご主人の Ingvar に、引退して時間があるから、このトイレを輸入して、販売する商売をやったらどうか、と冗談を言っていました。

9月の同時テロ以来、脚光をあびているアフガニスタン。緑も川もなく、砂漠の國。最近テレビ、新聞を通じて、この國の様子を知る機会が多くなりました。先日、雑誌の対談で曾野綾子さんが、アフガンの人々の生活に触れ、かれらの下の処理の話になりました。まともなトイレなどありません。紙をつかうこともなく水もそう簡単にはないことから、一部には、縄で拭いたり、乾かすに任せたり、石を使って拭くはずです、とありました。

日本のNGOによる井戸掘り再開が待たれています。それにしても、洗浄トイレが普及し、スイスからの客人にまで羨ましがれる日本は、なんと恵まれた國ではありませんか？ 神様に感謝します。 メリークリスマス！

＊＊＊＊＊

THE OSAKA CENTENNIAL



ニコニコ・メッセージ

[Messages from the Club Members]

11月例会に出席のゲストは、石津雅人、鎌田史郎の両氏。ビジターは、大阪千里クラブの石川修氏です。

《ゲストからのメッセージ》

○優秀クラブの「センティナル」に出席できて感謝。ゴマスリではありません。

(大阪千里クラブ・石川 修)

《“ごぶさた”メッセージ》

○例会は仕事の都合で欠席させていただきます。毎度の欠席で心苦しく存じますが、プリテンを読ませていただいたり、メールを拝見して皆様のご活躍や近況を知ることができます。仕事の励みにしています。

(池永 栖子)

○欠席させていただきますのでよろしくお願ひいたします。

(池永 洋宣)

○当日18時過ぎまで西神中央で仕事にあたります。例会への出席は、相当遅くなるか、欠席させていただくようになるかもしれません。

(谷川 俊一)

○11月21日の例会は、会議のため出席できなくなりました。この時期、大学は採用人事の季節で、臨時の会議が開かれることが多いのです。ご容赦ください。

(貴多野乃武次)

○チャリティーランでは何とか1,000M走れました。来年は2,000Mにチャレンジしたいですが、足がついてきますかどうか……例会は、島根県出張のためおりません、欠席します。

(新保 正秋)

《会員からのメッセージ》

○センティナル20周年記念事業として「アメラジアン子どもサミット」が実現しようとしています。今後の取組みも含めて、意義のあるCS活動にしたいものです。

(栗山 佳三)

○鈴木先輩のお元気なお姿に接して。

(黒田 嶽之)

○鈴木謙介さんがお元気になられてとってもうれしいです。これからもずっと毎月お会いできることを楽しみにしています。

(坂本 千春)

○最近まで病臥していて例会出席ができずでしたが、今はよくなっています。

(鈴木 謙介)

○久しぶりの例会で皆様にお会いできて楽しい集いを持てました。

(岡田 恵子)

○楽しい例会有難うございました。

(田中 積二)

○健康を許され例会に参加することができ、感謝です。

(谷川 寛一)

○CS活動の具体的な話がいいよいよセンティナルで始動しました。たくさんの人のがかわり、負担がなきよう、楽しく意義あるものを作りましょう。

(中村 茂尚)

○今日もまたセンティナルの例会を通して世界が見えています。みなが幸せで平和でありますように。

(中村 幸枝)

○秋晴れの下のチャリティーラン、皆さまごくろうさまでした。2チームよくがんばりました。山村ファミリー、松浦ファミリーを中心に若いも若きも協力し完走しました。順位は気にしないでいきましょう。

(畠中 樹)

○11月はチャリティーバザー、チャリティーラン、「いのちの電話」発送と、お手伝いの機会が沢山ありました。“元気”っていいなあーと思うことしきりでした。

(畠中ひろみ)

○BF活動の大切さを再認識させていただいた例会でした。今後とも一枚の切手を無駄にすることなく、活用していけばと思います。

(浜野 昌保)

○元気で久し振りの切手整理を楽しみました。新しいCSプロジェクトはまことに有意義では非実現したい。テープの音の調整不良は申訳ありません。

(福永 嘉彦)

○久し振りにお目にかかる人も多く、賑やかな例会で心嬉しいです。CS目標も決まり、皆さんの方でセンティナルの力を大いに發揮したいものです。

(藤原 正巳)

○家の建替えを計画し、10月下旬近所に引越し、今仮住まいをしています。30年間蓄積した家財、本、資料、子ども達の昔の教材などの整理とパッキングに、この数ヶ月忙殺されました。ワイズの資料だけはすぐ取り出せるように手元に置く毎日でした。

(松浦 孝次)

○チャリティーランで頑張ったことを祝して。(結果はともあれ)

(三浦 直之)

○チャリティーランでは、センティナルファミリーの元気な皆さんと一緒に走れ、折からの秋晴れにも恵まれ、幸せな一日をすごせて感謝です。この勢いで23日には川西市の市民マラソンでハーフに挑戦します。完走できるようお祈りください。

(山田 孝彦)

○前日(20日)広島の母校の創立100周年記念に出席し、50年前の私の修学旅行感想文を発見しました。びっくりしました。「聖堂の天井高く菊薰り」

(山村 幸明)

○中村さんのアメラジアンプロジェクトの話を聞き、センティナルクラブの積極的な支援を応援します。

(山村 利子)

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
《編集後記》

当月号プリテン発行は、12月第1例会(12月1日)までに間に合わせるため、11月23日で原稿を締めきました。このため11月のBFニュース、11月第2例会の出席状況や報告など一部の情報を掲載できないまま、当月号を発行せざるを得なかつたことをご了承ください。1月号で掲載します。

11月第1例会の英文レポートも、藤原さんにあわただしく一日で英訳をお願いした次第です。

いよいよ師走、越し方行く末を吟味する時期ですね。

(松浦 孝次)